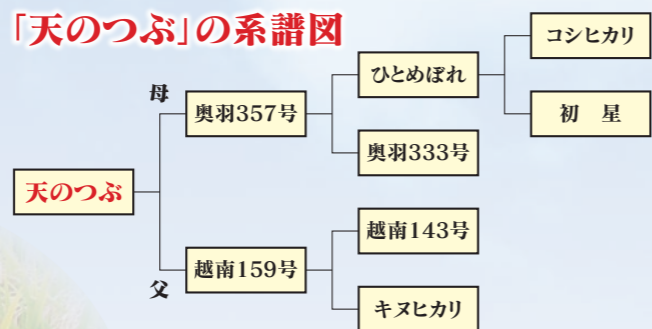


育成経過

「天のつぶ」は、平成7年に、福島県農業試験場(現福島県農業総合センター)において、栽培しやすく、玄米品質が良好な良食味品種を目指し育成を始め、15年の歳月をかけ完成した県のオリジナル品種です。

「天のつぶ」の系譜図



「天のつぶ」の育成経過

平成7年：母「奥羽357号」×父「越南159号」を交配
 平成10年：「郡系322」の系統番号を付与
 平成12年：「福島9号」の地方番号を付与
 平成13~17年：水稻奨励品種決定基本調査で試験栽培を実施
 平成18~21年：水稻有望系統現地適応性試験で試験を行い、育成を完了
 平成22年：県の奨励品種に決定、名称を「天のつぶ」に決定

品種特性

倒れない、いもち病に強い、収量・品質が良い

稈長が「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より短く倒れにくい品種です。

出穂期(穂が出る時期)は、「ひとめぼれ」より2日程度遅く、「コシヒカリ」より5日程度早い品種です。

いもち病(穂いもち)に強く、栽培しやすい品種です。

品 種 名	天のつぶ	ひとめぼれ	コシヒカリ
早 晩 性	中生晩	中生	中生晩
出 穂 期 (月日)	8月10日	8月8日	8月15日
成 熟 期 (月日)	9月24日	9月21日	10月2日
稈 長 (cm)	72	84	92
穂 長 (cm)	17.4	18.0	17.4
穂 数 (本/m ²)	458	510	425
倒 伏 (0~5)	0	1.8	2.4
耐 倒 伏 性	強	やや弱	やや弱
稈 の 剛 柔	やや剛	中	中
穂 発 芽 性	難	難	難
障 害 型 耐 冷 性	やや強	極強	極強
いもち遺伝子型	Pia,Pii	Pii	+
葉 い も ち	やや弱	やや弱	弱
穂 い も ち	強	やや弱	弱
収 量・標 肥 (kg/a)	62.4	61.9	57.7
玄 米 千 粒 重 (g)	22.8	22.4	21.5



▲左から「天のつぶ」、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」

※ 調査地:福島県農業総合センター ※ 調査年次:1999~2003年、2008~2009年

普及地帯、作付面積及び生産量の推移

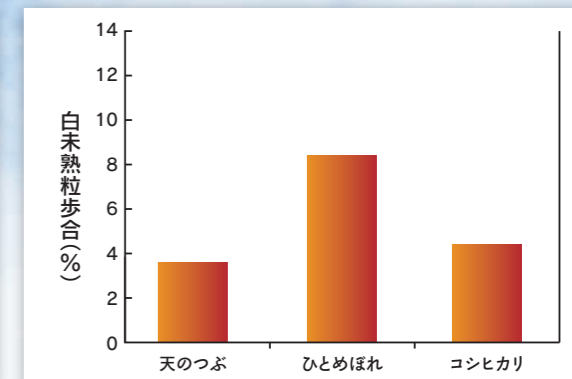
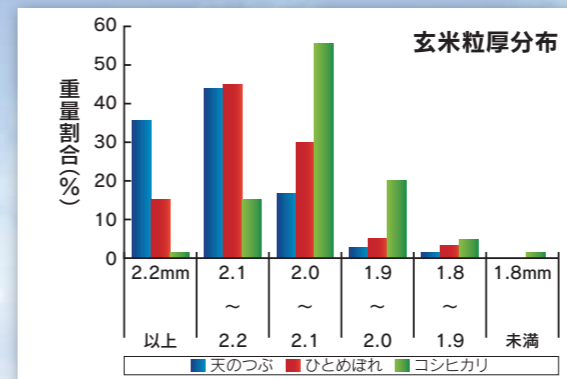
普及地帯は標高300m以下(障害型冷害を避けるため)です。

平成25年度の作付面積は、2,000haで、生産量は12,000tを見込んでいます。

年 次		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
作付面積 (ha)	計画	—	60	800	2,000
	実績	0.9	39	749	2,000
生産量 (t)	計画	—	300	4,000	12,000
	実績	5	211	3,165	

収量及び玄米品質

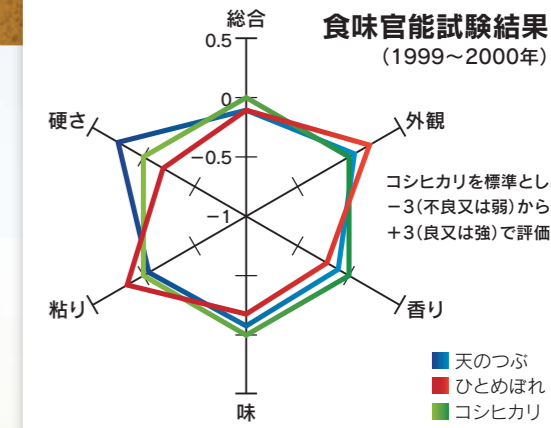
粒は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より大きく、収量は「コシヒカリ」よりも優ります。また、玄米品質は、等級低下の原因となる白未熟粒の発生が少なく、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」と比べても良好です。



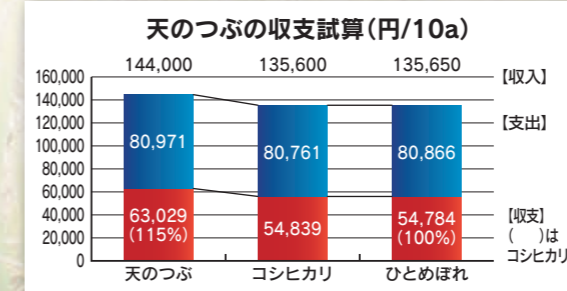
食味

コシヒカリ・ひとめぼれに匹敵する美味しさ

「天のつぶ」はしっかりとした食感で粘りもあり、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」と同等の良食味です。



収益性



「天のつぶ」の収量が高いことから、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」よりも高い収益が期待できます。(多肥栽培にすると、青未熟粒の発生が多くなるので注意が必要)

福島県農業経営指標をもとに試算

- ▼ 収量は「コシヒカリ」540kg、「天のつぶ」600kg「ひとめぼれ」570kgで積算
- ▼ 価格は、中通りの平成24年産米JA概算金を参考に積算

生産者の声

農家の皆さん、あなたも作ってみませんか?

Aさん(中通り)

- 天のつぶはなんと書いても作りやすかった。
- 倒伏しない上に収量も取れた。
- コシヒカリとひとめぼれの間で収穫出来て、作業性も良い。
- 食味も良いと思う。

Bさん(会津)

- 全く倒伏しなかったので栽培しやすい。
- 収穫作業もスムーズだった。
- 収量が多くて、良かった。
- 食べた時に、粒がしっかりしていておいしい。

Cさん(浜通り)

- 天のつぶは作りやすくて、収量が多いのがいいですね。

天のつぶの特徴